

国語科書写指導案

指導者 藤井 浩治

- 1 日時 令和2年 ○月○○日 (木)
- 2 学年 第4学年 9名
- 3 単元 左はらいの方向「麦」
- 4 単元について

この単元で学習する文字の原理原則について述べる。
※この例では「左はらいの方向」の原則とその理由(原理)について書いている。

(1) 題材観

本単元では、「画(左はらい)の方向」について「麦」を取り上げて学習する。「左はらいの方向」については、漢字個々についての方向を覚えることではなく、「左はらいの方向」の原則を知ることである。「左はらいの方向」の原則とは、「左はらい」が複数ある漢字は、複数の左はらいの方向を同方向とせず、変化させるということである。つまり、複数の左はらいが縦に並ぶときは、放射線状に開く方向となり、複数の左はらいが漢字の下部で横に並ぶときは、閉じる方向となる。

この単元で学習する文字の原理原則についての児童の実態を述べる。
※この例では「左はらいの方向」の原則について「方向が変わっていない」ことを書いている。単なる思いつきでなく、事前に児童の書き文字を集めておいて、「○%の児童ができていない」等分析すると更に良い。

その原理としては、「左はらい」が縦に並ぶときに横向きとなり、中部は上下の画にぶつからないため下方向となる。よって、縦並びは横・斜め・が横に並ぶときは、二つ目の左はらいは必ず次のできるだけ速く次の画に移るために「左はらい」に近づく。よって、漢字の下部の横並びは閉じる

(2) 児童観

児童の書き文字の実態として、画は同じ方向に書くという意識があり、複数の「左はらい」を同方向に書いてしまう傾向がある。

この単元で学習する文字の原理原則について児童に発見させる時の工夫を述べる。
※この例では、漢字カードを分類する工夫について書いている。技能を習得させるための練習用紙の工夫を書くことも良い。

(3) 指導観

- ①「左はらい」を複数含む漢字カードを「閉」の点を考えることで「左はらい」の方向の原則について
- ②方向の異なった字例カードを比較して、方向を知る。

5 単元の目標

- 「左はらいの方向」の原理原則を理解し、「左はらいの方向」に留意して書くことができる。(知識・技能)
- 「左はらいの方向」を確かめながら、丁寧に書くことができる。(思考・判断・表現)
- 進んで「左はらいの方向」を確かめることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

6 指導計画(全3時間)

次	学習内容	知識技能		思・判・表	学習態度
		知識技能	思・判・表		
1	毛筆で「左はらいの方向」の原理原則を知る。 ②	◎	○	理解し留意して書いている。 ・「左はらいの方向」の原則を確かめながら丁寧に書いている。	毛筆まとめ書き
2	硬筆で「左はらいの方向」の原則を他の文字に用いる。①	○	○	進んで「左はらいの方向」の	学習態度 硬筆まとめ書き

単元の目標は、原理原則を理解して書く(知識技能)原則を確かめる(思・判・表)原則を他の文字に進んで応用(態度)に設定する。

単元計画は、1次では「毛筆」で文字を整えて書く原理原則を理解し、2次では「硬筆」で原則を他の文字に応用し、技能の定着を図る流れとなる。

7 本時の展開

<第1時>

(1) 本時の目標

- 「左はらいの方向」の原理原則を理解し、留意して書くことができる。(知識・技能)
- 「左はらいの方向」を確かめながら、丁寧に書くことができる。(思考・判断・表現)

- 進んで「左はらいの方向」を確かめることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本時の評価規準

- 「左はらいの方向」の原理原則を理解し、留意して書いている。
- 「左はらいの方向」を確かめながら、丁寧に書いている。
- 進んで「左はらいの方向」を確かめることができる。

(3) 学習の展開

学 習 活 動	留意点	評価規準	評価方法
1. 「麦」を試書する	手本を見ないで書くことにより、児童が自分の課題を知る材料とする。		
2. 「左はらいの方向」の原理原則を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・「待・名・冬・形・夏・反・級・友」のカードを比較、分類して「左はらいの方向」の原則に気づくようにする。 ・「手」「番」「人」等のカードを比較し、方向を変化させる原理を理解させるようにする。 		
3. 自己課題を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・試書を基に、「左はらいの方向」についての自己課題を知る。 		
4. 「左はらいの方向」に気をつけて「麦」を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・手本を見て書かせる。 		
5. 中間批正	<ul style="list-style-type: none"> ・①「麦」の2つの「左はらい」は閉じる方向になっているか。②「麦」一つ目の「左はらい」はまっすぐに、2つ目の「左はらい」は丸く曲がりながら横向いているか。③「麦」の一画目の充分下げた位置から始めているか。 		
6. 「左はらいの方向」に気をつけて書く練習をする	<ul style="list-style-type: none"> ・練習用紙を使って、「左はらいの方向」に気をつけて書くことができるように練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・「左はらいの方向」の原則を確かめながら丁寧に書いている。 	学習態度
7. まとめ書き	<ul style="list-style-type: none"> ・「左はらいの方向」について、自分の学び 		まとめ書き
8. 振り返り			振り返り

本時の目標は、原理原則を理解して書く(知識技能)原則を確かめる(思・判・表)原則を進んで確かめる(態度)に設定する。

本時の目標の文末を「～している」に変える。

学習活動は、はじめに「試書」をさせる

次に、文字を整えて書く原理原則を発見させる。※決して教え込みとならないように留意する。

1で書いた自分の試書に「原則」を当てはめて自己評価させる。※自己課題を自覚させる。

「原則」を意識して「手本」を見て書かせる。※「手本」に「原則」を言葉や記号で書き込ませると更に意識化できる。

4で書いたものに「原則」を当てはめて自己評価させる。※試書の自己評価よりもかなり向上するのでここで褒める。

「まとめ書き」の前に「原則」を意識して「練習用紙(かご字)」に書かせる。※理解できているが技能が伴わない児童に対して非常に有効。

「原則」を意識して「まとめ書き」をする。まとめ書きを「原則」に当てはめて自己評価させる。

「試書」と「まとめ書き」を机上に並べて置かせ、「原則」に当てはめて、向上したところを相互に評価し、できるようになったことを振り返る。